

★今週の聖句

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」

ヨハネによる福音書 15:5

★ねらい

枝に繋がるということは、真のぶどうの木であるキリストに繋がることと同時に、お互いにキリストの体とされている教会に繋がること。キリストという木に繋がることは、枝同士が互いに結び合うことでもある。ここに個人的信仰に基づきながら、それを越えた生命共同体的（教会的）信仰の重要性が示されている。愛の掟とは、父からキリストへ、キリストから私たちへと受け渡された愛を他者へと分け与えることであり、それは何かをすることに先だって、キリストに「繋がる」ことから始まる。

★説教作成のヒント

植物なら根、幹、枝、葉そして花や実という有機的なつながり。動物なら人間も含めて、体の色々な部分が一つにつながっているのちを育てていることが分かりやすい例となる。そして、私たちが繋がって（繋いで頂いている）理由が大切。それは、枝が実を結ぶことは父なる神さまの栄光に繋がっているということ。この罪人の私の救いを通して、神さまの栄光が顕されるということ。ここに驚くべき逆説、教会に託された福音がある。

★豆知識

キーワードは「繋がる」。ギリシャ語ではメノーという言葉が用いられ、ヨハネ文書では神学的に重要な言葉。これは形式的・外面的にくっついているという状態ではなく、お互いが内面的に深いところで結びついている「相互的内在関係」を表している。この言葉を新共同訳聖書では「つながる」と「とどまる」と訳し分けているが、両方の意味が大切。ヨハネ文書がメノーを強調した背景には、当時の教会が置かれていた過酷な迫害の中での信仰者の戦いがあった。ただ漫然と繋がっているのではなく、しっかりとキリストに結びついて福音にとどまるということ。私たちにとって、一見牧歌的なぶどうの木の譬えは「いのちの問題」なのである。

★説教

木の枝は自分から「この木がいい」とか、「あの木がいい」と言って、くっつくものではありません。逆に木が枝を張り、養分を送り、成長させて下さるのです。主イエスは繰り返し何度も「つながる」という言葉を語ります。「つながる」ことは、一人では出来ません。必ず相手があって「つながる」ことが出来るのです。誰かと繋がっていたいという思いは、私たちの根源的な欲求です。

よくルーテル教会で語られる譬えに、子猿の信仰と子猫の信仰というのがあります。小猿が親猿と一緒に移動する時、よく親猿にしがみついている姿を見ます。この場合、小猿が手を離したり、何かの拍子に振り落とされてしまうと、小猿は落ちこちてしまいます。ですから小猿は必死です。

一方で、猫の場合、親猫は子猫の首根っこをくわえて移動します。ですから、子猫はただ力を抜いて

安心して親猫に身を任せておけばよいのです。信仰も同様です。私が自分の力でしがみつくように一生懸命神様を信じるのは「小猿の信仰」です。つかまる力（信じる力）が弱くなったら落ちてしまいます。そのような信仰は、いつもびくびく、おどおどして安心感などは感じられません。「子猫の信仰」は、逆に親猫（神さま）がしっかりと私たちをつかんで下さっています。だから、私たちは安心して身も心も任せることができるのです。同じようにぶどうの枝である私たちは、ただひとえに真の命のぶどうの木である主イエス・キリストに身を委ねる形で繋がっているのです。

一方で主イエスは、厳しいことも語られました。それは「実を結ばない枝はみな、取り除かれ、捨てられ、焼かれてしまう」ということです。これはどういうことなのでしょう？ 良い木は良い実を結び、悪い木が悪い実を結ぶのなら分かります。しかし、主イエスという良い木につながっているが、実を結ばないということがあるのでしょうか？

先ほど、「つながる」という事について語りましたが、主イエスはもう一つの言葉でそれを表現しています。それは「とどまる」ということです。9節では「わたしの愛にとどまりなさい」と語っておられます。実は日本語で「つながる」と「とどまる」と訳し分けられている言葉は、原語では同じ言葉が使われています。

スマートフォンのアプリに「ライン」というのがあります。これは正に友達同士が繋がっていることを実感するための道具ですが、実際に起きた友人間のトラブルによる殺人事件のように、現代人の繋がりとは瞬間的で忍耐がなく、自己中心的で他人の気持ちを思いやることからほど遠いのが現状ではないのでしょうか。

「つながる」と「とどまる」ことが同じ言葉であるのは、そこに確かな意思があることを意味しているのではないのでしょうか。単にぶら下がっているというのではない。むしろ、川の流りに押し流されずに立ち続ける石のような在り方です。7節で主イエスは「わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるなら」と仰います。つまり、私たちが主イエスのみ言葉の中に踏みとどまるなら、そのみ言葉の中に生きるならば、私たちは豊かな実を結ぶようになるのだと語っておられるのです。そしてそれこそが神さまの栄光を現すことになるのです。主イエスに繋がるとは、み言葉が私の中でまるで息づくようにその中に身を置くことです。それは楽なことではありません。み言葉に従えない自分と闘い、またぶら下がっているだけでは振り落とされてしまうような試練にも耐えなければならないのです。しかし、私たちがしっかりとキリストから目を離さずに踏み留まるとき、どのような人生の荒波の中でも私たちはキリストの平安の中に憩うことが出来るのです。

★分級への展開

○讚美しよう *讚美歌” はこどもさんびか”（日キ版）より

73番 改訂版60番

○話してみよう

- ①誰かにぶら下がってしがみついている様子や、おんぶしてもらっている様子を思い出してみる。（または実際、大人の人に手伝ってもらってその場でやってみる）

その時、どんな気持ちを感じたかを書き出してみたり、話し合ってみる。

- ②神さまを信じるのが、一所懸命頑張って神さまにしがみつくとしたら、赤ちゃんやお年寄り、力が弱い人や、疲れている時、頑張る力のない病気の人や障がいを持っている人はどうなってしまうのか、考えてみましょう。
- ③今度は逆に、神さまを信じるということが、抱っこやおんぶをしてもらって安心して身と心を委ねることだとしたら、どうでしょうか？

○やってみよう

☆ぶどうをつくってみよう

1. 折り紙の茶色と紫を6等分に細く切ります。
2. 最初に茶色を輪つなぎして、ぶどうの枝を作ります。
3. その後、枝の好きなところから紫色で輪つなぎの要領でぶどうの実を作っていきます。

みんな神様に繋がっているブドウの実が出来上がります。

★今週の聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」

ヨハネによる福音書 15:12

★ねらい

主イエスの与えた「新しい掟」とは、どこが新しいのでしょうか？ それは、主イエスは「わたしがあなた方を愛したように、互いに愛し合いなさい」と語られているという点です。旧約では「自分自身を愛するように」と基準が自分自身に置かれていたのに対して、新しい掟は、主イエスご自身の姿にその根拠が置かれているのです。この言葉は「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」と続きます。ここに示されているのは十字架の主イエスです。私たちも、他者との関係の中で愛と赦しを経験します。その中にこそ、各自に与えられている小さな十字架が秘められているのです。

★説教作成のヒント

互いに愛し合えと言われても、愛することの出来ない私たちの現実があります。その現実を誰よりも主イエスをご存じでした。従って、無理にクリスチャンぶったり、善人ぶる必要はないのです。あの威勢ばかり良くて、肝心の時には弱くふがなかったペトロが、殉教を恐れずに宣教をすることが出来たのは、主イエスの愛と赦しを実際に体験したからです。主イエスの愛と赦しを体験したものだけが、それを分かちあうことが出来るのです。

★豆知識

「愛」は仏教では一種の煩惱でしかありません。異性への愛、親子の愛、友人への愛、それらは「執着」に他ならないからです。ですから、江戸時代に最初に聖書の言葉を日本語に翻訳する時、「愛」という言葉は使われませんでした。そして聖書の愛を表現するために使われたのが「お大切」という言葉です。これは優れた翻訳だと思います。愛しなさいと言われても、私たちはどうしたって愛せない人が存在します。しかし、どんなに嫌いな人であっても「大切」にすることは出来ます。また「大きく切る」と書くこの言葉は、御自分の命を十字架の上に捧げて下さった主イエスの愛を文字通り表現しています。また、仏教で愛は煩惱としての「執着」ですが、聖書の神さまは私たちが大切に大切にたまらない。一人もその命を失いたくないという神の愛ゆえの執着なのです。この神さまの執着がなければ、私たちとづくに滅んでいたことでしょう。

★説教

日本キリスト教団銀座教会の名誉牧師に渡辺善太という有名な先生がおられました。善太節と呼ばれるユニークな語り口の説教者で、また見る者をどきっとさせる説教題をつけることでも有名な方でした。この渡辺善太先生の説教に「偽善者を出す処」というのがあります。偽善者を出す処、それは教会であり、教会には必ず偽善者が出ると語るのです。

皆さんはいかがですか？ 偽善者と聞いて「どきっ」としないでしょうか。特にクリスチャンホームの

方は、両親や教会に反発したくなるのが時々あるのではないのでしょうか？ それは両親が教会で見せている姿と、普段生活している姿に大きなギャップを見つけるからではないのでしょうか。言っていることとやっていることが違う。外面と内面がまるで別人。そのような姿に子ども達は幻滅してしまう。両親もそのことを子どもに指摘されると赤面し口をつぐまざるを得ないふがいなさを感じる。そんな経験はないのでしょうか。それは、自分にないものを無理に行おう（演じよう）とするからでてくる綻びのようなものです。

主イエスは私たちに信仰を求めておられます。しかし、この信仰は、私たちの中にもともとあるものではありません。ないものをあるように見せようとするから問題が起こるのです。むしろ、信仰とは与えられるものだと思います。それをきちんと受け取ることができるこそが信仰なのです。

例えば、月は光って見えますが、それは太陽の光を受けてそれを反射しているためです。月自身が光を発しているわけではありません。磁石にくっついている金属は、他の金属ともくっつくことができます。しかし、磁石にくっついていなければ、金属どうしは互にくっつく力はありません。磁石につながっていることによって金属同士がくっつき合う力が伝わっていくのです。また、最近では電車やバスに乗るのに、ICカードを用います。JR西日本ではICOCA、東日本ではSUICAというのがあります。このカードの特徴の一つは、カードの中に電池がないということです。ICカードですから、あのカードの中にはICと呼ばれる電子回路が入っています。当然、電気がないと動かないわけです。それじゃあ、どうやっているかということ、あのカードの中にアンテナがあって、改札にかざすと改札から出ている電波をキャッチして電気を起こす仕組み、理科で習った電磁誘導という原理です。

私たちが命じられている愛も同じことなのです。主イエスが私たちが愛して下さっているその愛を体一杯に受けて、受けることから自ずと出てくる愛です。何も私たちの側にバッテリーを持ってなくて良いのです。あったとしても、どうせすぐに上がってしまうようなバッテリーなのです。そう、私たちは私たちの空っぽの井戸から水を無理に汲まなくて良い。そうではなく、命の泉である主から命の水を頂くのです。それを携えていくのです。

私たちが愛せないのは、私たちが主イエスの愛を良く知らないからです。体験していないからです。ですから私たちが自らの愛の足りなさに嘆く時、私たちは愛する力を増し加えたまえと祈りたくなります。しかしむしろ、主イエスの愛が見えるように、感じられるように、この目と耳を開いて下さいと祈るべきなのです。主の愛に触れた時、私たちは動き出さずにはいられなくなるのです。主イエスがまさに、祈りの人でありました。主ご自身が父なる神さまから力を与えて頂いていたからこそ、そのようなお働きが出来たのであります。

★分級への展開

○さんびしよう *讃美歌” はこどもさんびか”（日キ版）より

□141番 □改訂版108番

○話してみよう

- ① 他人に何かを与える場合には、自分自身がそのものを持っていることが前提です。
もし、自分が持っていないのに他人に与えようとしたら、どうしたらよいでしょうか。
- ② 他人を愛することは簡単なことでしょうか、難しいことでしょうか？ なぜそのように思ったのでしょうか話し合ってみましょう。
- ③ 「大切にする」ということはどういうことでしょうか？ 「愛する」という言葉を「大切にする」と置き換えてみたらどうなるでしょうか？

○やってみよう

☆お母さんにプレゼント贈ろう

<用意するもの>

マグネットシート（100円ショップでも売っています）、油性マジック、はさみ又はカッター、プレゼント用の袋、リボン

※あらかじめシートを5～6センチ角（1人分）に切っておく。

①マグネットシートに好きな絵を書く

例) お母さんの顔、お母さんの好きな物など

②絵に沿ってハサミで切ると冷蔵庫マグネットのできあがり

きれいにラッピングして、お母さんに感謝の言葉を添えてプレゼントしましょう。

・お母さんを教会学校に招待して親子で作ってもいいですね。

2015年5月17日 昇天主日

ルカ 24:44-53 使徒 1:1-11 エフェソ 1:15-23

★今週の聖句

「そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。」

ルカによる福音書 24:51

★ねらい

英語で卒業式を commencement と言いますが、これはここから始まるという意味の言葉です。ですから、ルカにとりまして主イエスの昇天の記事は、「終わり」ではなく教会の時が「始まる」プロローグに他ならないのです。十字架上で死に、そしてよみがえられた主イエスは、そのお姿を40日間に亘って弟子たちに示されました。しかし、嬉しい反面、復活の主を見ても信じられないでいる弟子たちの霊的な盲目性が描かれています。45節には、そのような弟子たちのために、「イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて」下さったとあります。私たちも同様です。不安の最中にこそ、心の目を開いて頂くのです。そして聖霊を求めよ、と主は命じておられるのです。この聖霊を与えるために主イエスは昇天されたのです。そして、聖霊に満たされ、心の目が開かれた弟子たちは、復活の主の「証人」となっていたのです。

★説教作成のヒント

『セーラー服と機関銃』という映画の主題歌に「さよならは別れの言葉じゃなくて、再び会うための遠い約束」という歌詞があります。主イエスの昇天は、地上における一時的な別れに他なりません。再会の約束が与えられているのです。そして主イエスは弟子たちを祝福しながら天に上られ、祝福の手を私たちのためにまだ上げ続けていて下さいます。この主の祝福に支えられ励まされて、私たちは信仰の旅路を歩む幸いが与えられているのです。

★豆知識

復活節の最後を飾るのが昇天主日であり、同時に聖霊降臨の出来事への橋渡しとなっている。特にルカは、聖霊行伝とも呼ばれる使徒言行録を福音書の続編として残している。それは、主イエスの昇天が終わりではなく、聖霊によって新たないのちに生かされ、復活の主の証し人たちが福音を告げ知らせていく始まりとなっていくからである。「マラナ・タ (MARANA・THA)」という言葉は「主よ、来て下さい」という意味ですが、区切りを一文字ずらすと「マラン・アサ (MARAN・ATHA)」、「主は来て下さった」という意味になります。教会の時代を生きている私たちは、まさに既に主が来て下さった時代と主の再臨(終末)を待つ時代の間を生きているのです。

★説教

皆さんは東京タワーやスカイツリーに上ったことがあるでしょうか？ どうしてこんなに高いタワーが作られたのかというと、それはTVやラジオの電波をできるだけ遠くまで届けるためなのです。また海辺の海岸や島には灯台があります。これも高い塔から光りが出ている、船に乗っている人が迷わずに航海できるようにその道を照らしてあげているのです。

私たちが顔と顔を合わせてお話するのはとても楽しいことです。声だけでなく、顔も見えますし、手を握ったり肩をたたくことも出来ます。でも、誰かと一緒にいることは、他の誰かとは一緒にいられないということでもありますね。イエス様のお弟子さんたちは、十字架で死んでしまったと思っていたイエス様が復活なさって、以前と同じように自分たちとご飯を食べたりお話をしたりするのを見て、とても嬉しかったと思います。しかし、復活されたイエス様は、もうお弟子さんたちだけのイエス様ではありません。世界中の全ての人たちのイエス様になって下さったからです。

それでは、世界中のみんなにどうやったらイエス様の声を届けることが出来るのでしょうか？ マイクを使っても 100 人位にしか声が届かないですし、いつでも、どこでも、誰にでも、というわけにはいきません。ではどうしたらよいのでしょうか……。

それはスカイツリーよりももっと高い天に昇ることです。世界中の放送が見られる衛星放送の衛星が高～いところにあるように、天からなら世界中のみんなにイエス様のメッセージを届けることが出来るのです。

イエス様は天に昇っていかれる時、手を上げてお弟子さんたちを祝福されました。そして、イエス様は一度祝福のために挙げられた手を下ろしておられないのです。つまり、主は今でも絶えず私たちを天から祝福し続けて下さっているということです。イエス様が私たちに伝えたい一番のメッセージとは、神さまの祝福が全ての人に注がれているということなのです。

もし私たちがこのイエス様の祝福を感じないだとすれば、それは祝福されていないからではなく、祝福しておられる主イエスのお姿が見えないから、見ていないからではないのでしょうか。だからこそ、私たちは「心の目」を開いて頂かなければならないのです。（それが来週の聖霊降臨の出来事です）。

TV でもラジオも、見たり聞いたりするためにはチャンネルを合わせなければなりません。イエス様の声はいつでも聞くことが出来ます。そのためには心のチャンネルをイエス様に向けるだけで良いのです。どんなに悲しい夜や嵐の日でもイエス様の声は聞くことが出来ます。そのために、イエス様は天に昇って下さったからです。

しかし、そのためにはお弟子さんたちに「さよなら」を告げなければなりません。でも、この「さよなら」は「またね（また会いましょうね）」という意味の「さよなら」だったのです。だからお弟子さんたちは悲しくはありませんでした。むしろ元気にイエス様のことを沢山のの人に伝えることができたのです。だって、心の目にはニコニコと祝福しておられるイエス様のお顔がいつもしまっているからです。

★分級への展開

○さんびしよう *讃美歌” はこどもさんびか”（日キ版）より

□118番 □改訂版131番

○話してみよう

- ① お弟子さんたちは、イエス様とお別れをして悲しいはずなのに喜びに溢れていました。どうしてでしょうか。

- ② 沢山の人にイエス様のことを伝えようと思ったら、皆さんだったらどんな方法を思いつくでしょうか？
- ③ 英語の「さようなら」は” Good-bye” ですが、これは God be with you (神さまがあなたと一緒におられます) という意味です。どうしてこの言葉が「さよなら」になったのか話し合ってみましょう。

○やってみよう

☆パラシュートを作ろう

<用意するもの>

ビニール袋 (わの部分切って四角形にしておく・1枚で二人分とれます)、セロテープ、糸 (同じ長さ30センチくらいに切っておく・1人4本使います)、油ねんど、アルミホイル、マジック

- ① ビニールにイエス様の顔を書く。
- ② 糸をビニールの4隅にセロテープでくっつける。
- ③ 4本の糸を一つにくくり油ねんどをかぶせるように丸く包む。(重しになります) ※粘土が大きすぎると飛びません。
- ④ ねんど部分をアルミ箔で覆います。

「今日はイエス様が天に昇られた日です。イエス様パラシュートを飛ばしてみましよう。」

予告

来週はペンテコステです。みんなでフルーツポンチを作ります。1人1つずつ入れたいものとエプロンを持ってきましょう。例) りんご、いちご、バナナ、果物の缶詰など

★今週の聖句

「父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方が私について証しをなさるはずである。」

ヨハネによる福音書 15:26

★ねらい

ペンテコステでは聖霊が「舌」のようであったと記されています。これは聖霊に満たされた者達が、多くの言語で証しし始めたことと関係しています。元来、人間の舌は創造主なる神を讃美するために与えられました。しかし、詩篇 12:5 に歌われるように「舌によって力を振るおう。自分の唇は自分のためだ。わたしたちに主人などはない」(詩 12:5)と嘯くものとなってしまいました。「バベルの塔」の出来事は、それをよく物語っています。讃美を語る舌が、高慢の象徴、人間の分裂の象徴へと落ちてしまったのです。「バベル」という映画が数年前にありましたが、古今東西、人間の一番の不幸は、夫婦が、親子が、家族が、仲間同士が心を通じ合わせることが出来なくなってしまったことにあります。その分裂を再び一つにする出来事、それが聖霊降臨が私たちに示す神の和解の出来事なのです。

★説教作成のヒント

石川啄木の短歌に、『ふるさとの/訛りなつかし停車場の/人ごみの中に/それを聴きにゆく』というのがあります。盛岡出身の啄木は、東京の生活の中で、時に故郷のことばを聞きたくなって上野駅に出かけていたようでした。その心境を詠ったものです。聖霊降臨は「めいめいが生まれた故郷の言葉を聞く」(使徒 2:6, 8) 出来事でした。クリスチャンにとって天の故郷の言葉が聞ける場所は教会であり、故郷のお父さんからの手紙が聖書です。聖霊が舌のような形で現れたというのは、言葉をもって臨まれたということです。コミュニケーションに大切なのは言葉を通しての心のやりとりです。その最も深いところで聖霊は働いて下さいます。

★豆知識

聖書はどちらかというと視覚よりも聴覚を重要視しているように思います。目から入るものは誘惑や不信を生み出すと考えられているからです。アダムとイブの墮罪物語も「禁断の木の実」を見たのが発端でした。復活の主イエスを信じられなかったトマスは、主イエスの傷跡を見て、触れなければ信じないと語りました。一方、「聞け、イスラエルよ」と語られるように、聖書の民はみ言葉を聴き従うことの中に信仰を見出していました。聖霊降臨の出来事は視覚的な要素と聴覚的な要素がどちらも描かれています。中心はやはり弟子たちの口を通して語られた故郷の言葉でした。

★説教

聖霊降臨祭は新しい出発の日、教会の誕生日であるとよく言われます。何が始まるのでしょうか。何が生まれたのでしょうか。先週、私たちは主の昇天を覚えました。主イエスは、弟子たちの許を離れ、天の父の御許へと行かれました。弟子たちは、今までイエス様にべったりくっついて、イエス様と一緒にいればどうにかなると思っていました。その時、主イエスが去っていかれたのです。それは、「あなたがた

は自立しなさい」、「自分で歩き始めなさい」という、主のご復活の実として弟子達が自立して歩み始めることを促すためでもありました。

私たちは赤ちゃんの頃、一人で立って歩くことが出来ませんでした。ですからお母さんをはじめ大人の人に抱っこやおんぶをしてもらいました。でも1歳を過ぎると段々、ハイハイからつかまり立ち、そしていつの間にかひとり立ちが出来るようになるのです。お母さんが、子供がかわいいからといって、抱っこばかりしてはいつまでも甘えん坊のまま、独り立ちや歩くことは出来ません。信仰も一緒です。最初はミルクしか飲めない幼子でも、次第に堅いものが食べられるように訓練していかなければならないのです。その力と勇気を与えて下さるのが聖霊です。

それでは、私たちは聖霊を求めるのにめいめい勝手に、それぞれの信仰で祈り求めれば良いのでしょうか？ そうではありません。聖書には「一同が一つになって集まっている」時に起きたとはっきり書かれています。そして、これは偶然ではありません。先週の昇天主日で語られた「父が約束されたものをあなたがたに送る」という約束を弟子たちは待っていたのです。「待つ」ということは苦しいことです。じりじりした思い、本当に来るのだろうかという疑い、色々な思いの中で待つのです。ですから希望や信頼がなければ待つことは出来ません。これまでも主に従って来たとはいえ、弟子達に欠けていたもの。それは、この「待つ」ことではなかったのでしょうか？

2:8では聖霊に満たされた弟子たちが語った言葉を聞いた者たちが、ガリラヤ人である弟子たちからどうして「めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか」と驚いています。故郷の言葉、それは他にもない、一番その人の魂に呼びかける言葉、琴線に触れる言葉です。聖霊はそのように私達の魂へと呼びかけて下さる。それはまた、誰一人としてこの福音から漏れることはないということなのです。私がおもっても自然で素直に聞き、話すことが出来る。そのような言葉で聖霊は私のもとへと来て下さるのです。

私達が毎週礼拝に集うのは、私達の故郷が既に天の国となっているからでしょう。故郷の声であるみ言葉に触れるために教会へと集められてくるのです。そして私達はまた、この礼拝から生活の場へと派遣されていきます。聖霊が舌のような形で現れたというのは、言葉をもって臨まれたということです。今日、改めて私達一人一人がそれぞれ語る言葉をもつように、聖霊が降って来られるのです。誰に対してでしょうか？ それは私たちの周りの人たちに対してです。誰かに言われたとおりに、その言葉をオウムのように繰り返すではありません。この私が信じているその言葉を、自分の言葉でしっかり伝えていく、証ししていく。その力を聖霊は今日もまた私たちに与えて下さっているのです。

★分級への展開

○さんびしよう *讃美歌” はこどもさんびか” (日キ版) より

4 2 番 改訂版 9 3 番

○話してみよう

- ① いつまでも赤ちゃんのままでいたいと思うのでしょうか？ 赤ちゃんのままでいたいと思う時と、早く成長して大人になりたいと思う時は、それぞれどんな時でしょうか。

- ② 身近な方言を探してみましょう。標準語と方言とどちらに親しみがわきやすいでしょうか。
- ③ 大好きな人と会えなくて寂しくなった時、どうしたら慰められるでしょうか。
- ④ 聖霊は私たちにどのように働きかけて下さるのでしょうか。聖霊が働かれると、どんな風に私たちは変えられていくのでしょうか。

○やってみよう

☆ペンテコステフルーツポンチを作ろう

<用意するもの>

ナイフ（バターナイフ）、牛乳パックを広げたもの（マナ板として使います）、フルーツポンチを入れる大きめの器またはボール※必ず、手を洗って始めましょう。持ち寄りにしていますが少し用意しておいたほうがよいかもしれません。

★今週の聖句

「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」
ヨハネによる福音書3：3

★ねらい

「水と霊とによって新しく生まれる」とイエス様が言われているように、自分の力で生まれるのではなく、神さまの力によって守られ、歩むことを覚えたい。また三位一体主日として主と共に歩むことを覚えたい。

★説教作成のヒント

ニコデモは夜、イエス様のところに訪れたように、自分の立場上、盲目的にイエス様を信じることはできなかった。しかし、その教え、生き方に惹かれるものがあったことは否めない。「新しく生まれる」ということを聞いたニコデモは去っていくが、イエス様の逮捕に際して、ニコデモがイエス様を擁護する場面があり、十字架による死の後、イエス様の遺体を引き取る際には、ニコデモは没薬を持参している。このように人間の努力によって信仰を勝ち取り、生きていくのではなく、神さまの愛によって歩むのが信仰者の真の道である。

★豆知識

ニコデモという名前は「人々の勝利」という意味。「新しく生まれる」という「新しく」は「上から」という意味がある。「風」はギリシア語で「プネウマ」といい「霊」という意味もある。

★説教

スーパーや町で迷子になったこと、一緒に来た人とはぐれてしまった経験をしたことのある人はいますか？そういう時はとっても不安ですよ。はぐれてしまったらすぐにその人を探しますが、見つけたと思ったら違う人だったりするとお不安です。後ろ姿ではなかなか分からないです。そんなことを繰り返して大きな不安の中で、見つけてもらって、手を握った時、とても安心します。誰かがそばにいてくれる、一緒に歩いていてくれる。そう思うこと、感じること。それは大きな喜びと安心です。今日はニコデモさんという人がイエス様に質問をします。「大切なこと、神さまが教えてください」と聞くと、イエス様は「はっきり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と強い口調で言われたのです。ニコデモさんは「年をとった者が、どうして生まれることができますしょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか」と素直に言いました。もちろんニコデモさんの言うことは分かります。わたしたち、大きくなったので誰ももう一度母親のお腹の中には入れません。イエス様は「新たに生まれる」と言われます。これは「上から生まれる」という意味にもなります。神さまの力で生まれる、神さまの愛によって生まれるということです。洗礼式は神さまの子どもとして新たに生まれるという時です。迷子になってしまって不安であった時、見つけてもらったように、神さまの愛に見つけられて、神さまと一緒に歩いていくのが新たに生まれるということです。ニコデモさんはすぐにイエス様の仲間になったわけではありませんでしたが、多くの人がイエス様の言葉を聞いて、新たに生まれ、神さまの家族になりました。新しい家族の中心、大黒柱は神さまです。イエス様が祈りの時に「アッパ、父よ」と祈ったように、わたしたちも天の父を信頼して「アッパ、父よ」と祈ることがあたらしく生まれるということの第一歩です。自分の力ではなく、イエス様の愛、神さまの愛に守られ、一緒に歩いていきましょう。

★分級への展開

○さんびしよう *讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□8番

□改訂版12番

○はなしてみよう

・ニコデモは厳格に律法を守るファリサイ派でした。知識を持つ、きちんとした人でしたが、イエスさまをたずねてきて話を聞いても信じませんでした。それに対してイエスさまは「わたしが地上のことを話しても……」（3章12節）と言われました。知識は、神の国に入るために大切でしょうか？また、行い、身分、お金などは大切でしょうか？イエスさまは、なにが大切だとおっしゃっているのでしょうか？みんなで話してみよう。

○やってみよう

ニコデモさんは夜、イエスさまの所に行きました。明るいときに行くのが恥ずかしかったからかな？みんなの前で書くのはちょっと恥ずかしいこと、あるよね。今日はニコデモさんのようにこっそり書いてみよう。

<用意するもの>

高学年 白い紙と鉛筆人数分

低学年 幼稚科大きな布（ふろしき、カーテンなどなるべく黒っぽい色で）

◇高学年

内緒で聞きたい事を紙にかいて先生に渡します。先生は誰がかいたか言わないでみんなに答えます。
（紙に自分の名前を書かなくても良い）

◇低学年

先生は大きな黒い布を頭からかぶります。生徒はその中に一人ずつ入って夜にイエスさまを訪ねたニコデモさんのように先生に何か質問します。

※ビジュアル聖書百科P283ニコデモ参照